

第14回スポーツ・ボランティア・リレートーク レポート

2012年5月23日（水） 19時より21時

仙台市情報・産業プラザ セミナールーム

参加者 21名

「仙台・宮城スポーツの今～ 女子サッカーの可能性」

東北大学大学院 教育学研究科 中島 信博 氏

【自己紹介】

私は団塊の世代で琵琶湖のそばで生まれまして現在は東北大学に勤めています。実は若いころは英語の教師になりたくてまさか自分がスポーツに関わるとはおもっていませんでした。3年ほど東京にいて仙台にきてなぜかいついてしまいました。今年で定年、その後は(出身地の)滋賀のほうにもどる予定をしています。



【スポーツとの関わり】

スポーツは教養部の体育の講師をしていたということからで、私自身のスポーツ歴では子供のころは田舎の町でサッカーがなく野球しかありませんでした。高校にはいってからは背が高くなりたくてバスケットをやり（見ての通りあまり効果はなかったわけですが）、大学では卓球、勤めてからはゴルフ、テニスをやりました。

実は仙台にきて70年代から80年代に山形の庄内に農家の調査をしていました。そういうところから地域を考えてきました。したがって地域というと農村の風景が目には浮かびます。その共同研究からひとりで安比高原にいきはじめてリゾート開発を目にし、そのような山村の生活から日本社会をみることを研究してきたのです。

その後ブランメル仙台が気になり立ち上げた方々と関係ができ、現在の宮城県サッカー協会の会長である塩釜の小幡さんとも知り合いました。「地域とスポーツ」を考えたときに地域にあるスポーツ少年団を調べてきて、本当に地域に密着していると感じました。

ブランメルからサッカーに興味を持ち地域を考えた場合に野球よりもサッカーのほうが、比較的地域との関係をよく考えて手を打っていると思います、そのベースにはホームタウンなどをJリーグの理念として取り組んでいることがあります。

【ベガルタレディースの誕生】

ベガルタ仙台レディースの後援会の立ち上げにかかわっていて、今日は講義というよりは問題提起をしてみなさんに意見をうかがいたいと思ってきました。

資料にある「三度目の正直」というのは、もともとベガルタレディースの原点となるチームが国体用に作られたものであることと、次にいろいろな経緯があつて東京電力のチームとなったこと、そして今回仙台に移ったということを示しています。おどろくべきはこうした歴史があまりにも知られていないということで、現在の日本代表なでしこの前キャプテンは大部選手であり宮城にゆかりの深い選手でした。

地下鉄に乗るとベガルタのポスターがあり「より高みへ」というメッセージが書かれています。私が気にかかっていたのは以前男子チームに対しJ1に上がることばかりがいわれていたように、今のベガルタレディースも同じでメディアも含め昇格・昇格と騒がれることです。私としてはより高みへというのであれば、女性がもっともっと暮らしやすい場所になることのほうが大事だと思います。

過去にふたをしてしまい忘れてほしくないのは、ベガルタレディースの過去のことをきちんと知って、なぜ今私たちがチームをもつのか、それがどんな意味をもつのかを考えることが大切なのです。

また、以前ベガルタレディースの前身である「東京電力マリーゼ」が拠点としていた福島では、震災と原発事故のために多くの人が県外で生活しています。その場合そうした福島の人にとってベガルタがレディースをもったということはどう映っているのか、そのことにも気を配りながらベガルタレディースとして再生するという物語は大切だと思います。

昭和49年に宮城県三本木にチームのおおもととなる企業YKKAPが操業開始しており、実は県内では1990年代にも女子高校サッカーの輝かしい歴史があります。平成3年以降は大部さんがさまざまな場面に多く登場します。彼女の人生は現在のなでしこの隆盛の前の歴史を体現していると思ひぜひインタビューしたいと考えているところです。男子のJリーグ誕生はバブル崩壊の前になんとか間に合いましたが、女子サッカーはバブルの影響がシビアにあったと思われれます。そうしたことも含めていろいろ聞いてみたいのです。日本のスポーツでは卓球も、バレーボールも一時的に世界でトップとなりました。なでしこも現在は盛り上がっていますがロンドンでは非常に心配しています、(日本の女子でサッカーをしている人口は多くはありませんが)アメリカでは女の子が安全にやれるチームスポーツはサッカーであり、たくさんの人か一生懸命おこなっているのです。

平成9年にYKKフラッパーズが誕生、企業の中でつとめながらサッカーを行う仕組みでした。また、この年に国体の正式種目となっています。また、バブル時代は公共事業としての性格も持っていました。

また、国体にはジブシー選手というものもあり、開催県が優勝するためにそんな仕組みがありました。

さてYKKフラッパーズは平成16年に東京電力に移管され、現在は原発事故に伴いベガルタレディースとなりましたが過去のいきさつを忘れてはならないと思います。Jヴィレッジも原発の地域貢献から誕生したものですし、また、原発をよびこまなければならない地域の事情も忘れてはいけないと思うからです。さらに福島の方々にとってよそのまちの楽しい話しがどう映るのでしょうか。そのことも忘れずにまずはなくならずに戻ってきてくれてありがとうといたいですし、一時でなくささえるシステムを作る必要があると思います。

【これからの課題】

女性がサッカーを安心してやれる地域社会となるためには、まだ中学年代を中心に活動する場が十分にはないということ、部活動でも機会均等が保証されていないことがあります。そうした中でこのWカップ優勝は、ごく少数の人々が身銭をきって努力した結果ではないのでしょうか。ベガルタ仙台レディースをモデルとして考えると、その人のもてる能力を十分に引き出せる環境を女性にも作る必要があると思います。継続のためにはシステムが必要であり、そこには既存の仕組みをどうしていくのかという見直しも必要であり、特に女子にとってはそういえます。

【まとめ】

日本の長い歴史の中でスポーツは国家が支えてきたということがあります。一方で、企業が支える仕組みがありましたが、現在では国家も企業もあてにならなくなってきており、だからこそ地域密着という仕組みのサッカーのプロリーグが生まれた。と考えられます。しかし、地域が支えるという形はまだ見えず、私たちは入り口のところにいるのではないのでしょうか。

世界の人は被災地としての東北・仙台のことを、我々が思っている以上に注目しているはずで、その周囲のまなざしをもっと意識するべきですし、場合によっては活用すべきではないのでしょうか。前向きにとらえれば今はいろいろなことをやるチャンスなのです。

ご清聴ありがとうございました。

【リレートーク資料】

三度目の正直

— ベガルタ仙台レディースについて考える —

中島信博（東北大学）

「地域とスポーツの可能性」：スポーツボランティア・リレートーク

2012年5月23日（水）アエル6F・情報・産業プラザ

1.はじめに

- ・「より高みへ」（ホームタウン協議会・地下鉄広告） 「昇格」？
- ・過去に蓋？ 忘れてはならない・忘れたふりはいけない（井上ひさし）
- ・再生の物語が要る

2.年表的に

昭和 49 YKK・AP株式会社の東北事業所（三本木町）操業（6月）

昭和 53年 第1回宮城県ママさんサッカー大会(3/21 八木山小学校)[60年史:77]

昭和 54年 第2回宮城県ママさんサッカー大会(10/21) ここで終わる[60年史:77]

昭和 55年 七郷女子サッカークラブ創設・東北北海道で唯一 [60年史:77] [75年史:220]

昭和 59年 宮城広瀬高校が全国大会出場 [60年史:77]

昭和 60年 宮城広瀬高校が全国大会出場 [60年史:77]

1990年代 宮城広瀬高・石巻女子商・聖和学園（3度全国制覇）[75年史:220]

平成 3-10 大部由美は日興証券ドリームレディース[DVD.11-1]

3年で日本一をとれる可能性は企業にとって魅力的

Lリーグは世界一のリーグと呼ばれ

解散を告げられて会社の裏切りを感じた

平成 3-16 大部由美は日本代表[DVD.11-1]

平成 7 第2回 FIFA 女子世界選手権予選リーグでブラジルに勝利・五輪出場権を得る

平成 8 アトランタ五輪に出場して注目度上がる→予選リーグ全敗

平成 9 YKK 東北女子サッカー部フラッパーズ創部(4月)[FN110902:3] 三本木町

国体の正式種目となる [75年史:134 写真付]

宮城国体むけ→16年9月に東京電力への移管

伊藤孝夫（国体強化委員長）と浅野知事[120416]

工場内に芝のピッチ・工場長? の尽力[120416]

明治大学OBの斎藤誠監督に・選手集め[120416]

平成 9-15 斎藤誠が監督・コーチは原田?[FN120425:1]

平成 10 神奈川国体優勝(1/3) [75年史:134 写真付]

平成 11? 大部由美はOKIに1年→廃部

平成 11 第 3 回 FIFA 女子世界選手権 (米国) 予選リーグ 2 敗 1 分→シドニー五輪行けず

平成 12 L・リーグ 2000 から日本女子サッカーリーグに加盟・4 位

富山国体優勝(2/3)[75 年史:134 写真付]

U-15 第 5 回全国大会で東北代表 (宮城中心) が準優勝 [75 年史:220]

シドニー五輪に行けず注目度下がる

平成 12-16 大部由美がフラッパーズで 5 年在籍(日興証券から移籍)[FN120425:1]

平成 13 Lリーグ 3 位

第 56 回国民体育大会(宮城県中心 1/27~10/18)

成年女子は 12 チーム

会場は松島運動公園多目的広場・なるせ町奥松島公園多目的グラウンド

決勝で三重県(伊賀 FC くノ一) と引き分け[120416]

両チーム優勝(3/3)[75 年史:22 写真]

平成 14 [75 年史:134 写真付]

フラッパーズは 7 位

全国高校選手権で常磐木学園高校が優勝・準優勝は聖和学園高校 [75 年史:220]

第 14 回アジア競技大会(釜山) で川淵三郎は女子のひたむきなプレーにうたれる

→改善点を聴取→協会が動く(日当/出場手当など)

平成 15 第 4 回 W 杯 プレーオフ 第 2 戦 (7/12 霞ヶ丘) 女子サッカーの空気が変わった

メキシコに快勝・「ちぎれそうな糸がちぎれないですんだ」[大部由美]

YKK の子会社 YKK・AP にチーム移管 (10 月)

フラッパーズは一次リーグ 1 位・決勝リーグ 5 位

平成 16-17 黒澤尚が監督

平成 16 L・リーグ なでしこリーグ 2004 から YKK・AP 東北女子サッカー部フラッパーズ

黒澤尚が監督(3 月~平成 17 年 5 月 1 日) [FN120425:1]

14 人しかいない・うちキーパー 3 人[FN120425:1]

3 日目にチーム移管を告げられる[FN120425:1]

1 カ月くらいで YKK の熱心な人は転勤となった・選手も信頼[FN120425:2]

ここまでは工場内の試合に地元の人が出店したり・よい雰囲気[FN120425:3]

なでしこリーグ (5-11 月) がメイン・2 部落ちは避けねば[FN120425:1]

埼玉国体(9 月) 終わってチーム移管が選手に告げられ[FN120425:1]

環境はよくなると言われて[FN120425:2]

東京電力と YKK AP が移管を合意し・L リーグ評議会で承認(9/29)

フラッパーズのホームゲームの 1 試合平均入場者数が、昨季の 3 倍以上に増えた

アテネ五輪に出場したなでしこジャパンの人气が反映[K041122]

1 試合平均入場者数は 5 2 8 人。昨年の 1 6 2 人と比べて約 3. 3 倍に増えた

- 平成 17 YKKAP 総勢 200 名がフラッパーズ激励会(1/7) 最後の納会(1/8 鳴子温泉)
L・リーグなでしこリーグ 2005 から東京電力に移管され
「東京電力女子サッカー部マリーゼ」(檜葉町・広野町の J ヴィレッジ)
日本サッカー協会+J ビレッジ+東電[FN120425:1]
木村孝洋がサンフレッチェから監督にきた(2 シーズン)[FN120425:2]
黒澤尚にも話はあったが最終的には断り [FN120425:2]
斎藤誠は GM として 1 年かかわる [FN120425:2]
ディビジョン 1 で 4 位
マリーゼの試合を 1 万 1 人以上で応援するプロジェクト(9/25)日本青年会議所福
島ブロック協議会・NPO・福島県や商工関係団体[K050924]
- 平成 17-18 大部由美がマリーゼに 2 年在籍・怪我で引退[FN120425:1]
- 平成 18 マリーゼはディビジョン 1 最下位で降格・木村監督が辞任 (11/17)
大部が選手兼任監督に→退団・引退→境港で渡児童クラブ指導員に
渡り歩いた人生・幾度も挫けそうに・しかし続けられる場があるのなら義務と
- 平成 19-20 野村貢がマリーゼの監督
1 年でディビジョン 1 復帰
- 平成 20 マリーゼはディビジョン 1 で 6 位・野村監督退任
北京五輪でなでしこ 4 位と健闘・しかしブームは急速に終焉
- 平成 20? 黒澤尚が東北リーガ・スチューデントを立ち上げ[FN120425:3]
- 平成 21-23 菅野将晃がマリーゼ監督
リーグ 3 位
- 平成 23 宮崎でキャンプ中のため被災を逃れる (3/11)
4 月からのなでしこリーグ 2011 への出場を辞退
W杯でなでしこジャパン優勝(7/18)[K110719]
マリーゼ休部を耳にした(7 月下旬)[K120313]
日本女子サッカーリーグ専務理事の田口禎則から情報収集(8 月上旬)
7、8 団体が関心を示す中、東電に受け入れの意思を示した(8 月下旬)
休部を正式発表(9/28)
活動できなくなっていると聞いて心苦しかった[FN120425:2]
マリーゼの試合は近くであったし、1 万人入場者を目標にして頑張っていた
「仙台の人は本当に幸せですね」プロスポーツチームが三つもある [K111018]
ベガルタ仙台がマリーゼの受け入れ先に決定(11/4)
- 平成 24 「ベガルタ仙台レディース」として正式発足(2/1)
誕生した“妹”にかかる人手や資金などに回す余裕があるとはいえないが
女子チーム運営という挑戦がクラブ全体の成長につながると(白幡)[K120313]

日本女子サッカーリーグ 2 部 (プレナス・チャレンジリーグ 2012) に参戦
千葉泰伸が監督に

3. コクタイ

- ・ 急場しのぎ?
- ・ ジブシー選手?
- ・ 公共事業

4. フクシマ

- ・ 被災者の神経を逆撫でしないか?

cf 災害FM「あおぞら」(亙理町) 歌詞のある歌は流せず・よその町の楽しい話
忘却? 悦んでもらえるか?

5. 無関心と加担

- ・ 自分の非に目覚めさせてもらった
- ・ cf 川淵三郎

6. survive そして sustain

- ・ 「サッカーを続けてくれてありがとう」「仙台で俺達と歴史を築こう」: ホーム初戦
- cf フラッパーズとマリーゼのサポーターと共に
- ・ 「永久(とわ)に咲け」: ナデシコのNHKドキュメンタリー

7. ナデシコが永久に咲く土壌を

- ・ 女性がサッカーを安心してやれる地域社会
- ・ eg U-15の受け皿はお寒い限り ← 部活動の機会均等
- ・ 少数の「エリート」が「私的」に努力 → トップからキッズまで環境づくり
- ・ 地域社会全体へ波及 = どういう未来を望むのか

8. 地域が共に支える

- ・ 国家と企業依存 → 「地域密着」
- eg 「Jクラブが女子チームをもつ」(大竹七未)

9. おわりに

- ・ 辛酸と respect
 - ・ 周囲の眼差し
- eg 男子の活躍 eg 世界的に